

横浜市立 阿久和小学校 学校評価報告書 (平成28～30年度)

重点取組分野	具体的取組	自己評価結果	総括
確かな学力	「わくわくチャレンジタイム(習熟別学習)」あくわく漢字検定など個の能力に応じた学習を取り入れ、児童が見通しをもった主体的に取り組み、基礎的な学力の向上を目指す。 家庭や関係機関と連携しながら学校外学習の拡充を図る。学校司書やICTを活用し、情報活用の実践力を育てる学習を実践していく。	あくわく漢字検定では子どもたちが進んでチャレンジに取り組みの様子が見られ、わくわくチャレンジタイムでは自分のレベルに合った計算に取り組みることができたと感じている。国際教室でも国語や算数を中心に基礎的な学力の向上を目指し、教員の指導を受けた。次年度は一人ひとりに辞書を持たせ、すぐに調べられる環境を整える。基礎的な学力向上を図る時間の確保と学習意欲の向上を図る。	B
豊かな心	学校司書やボランティアを活用し、豊かな心を育てる読書活動を推進する。道徳の時間の充実を図り、年1回以上家庭・地域に公開する。YPAアセスメントを年2回実施し、児童の実態や姿勢を把握したり、社会的スキル横浜プログラムを月1回以上行ったりして、人間関係づくりを推進する。全校で取り組む音楽活動を通して、情操を育成する。	読書活動が推進され、豊かな心を育てる読書活動を推進する。道徳の時間の充実を図り、年1回以上家庭・地域に公開する。YPAアセスメントを年2回実施し、児童の実態や姿勢を把握したり、社会的スキル横浜プログラムを月1回以上行ったりして、人間関係づくりを推進する。全校で取り組む音楽活動を通して、情操を育成する。	B
健やかな体	安心・安全でおいしい給食を提供し、食育を推進する。体育の授業の充実とともに集会活動や休み時間や放課後遊びを通して健やかな体づくりを取り組む。食育・保健教育を充実させ、委員会活動や学校保健委員会を通して健やかな身体づくりを日々意識できるように環境を整える。	安全管理を徹底し、配膳や食事のマネー、片付けの仕方を守り、食・摂食し始める自立を目指し取り組んだ。2年連続で健康優良校として表彰を受け、給食委員会の食に関する全教員を対象とした食育講座も行った。委員会活動や学校保健委員会を通して、健やかな身体づくりを日々意識できるように環境を整える。	A
教育課程学習指導	教育活動全体を通して言語活動の充実を図り、喜んで学ぶことができるように「書く力」を付けていく。教科・領域に捉われない「書く力」に焦点を当てた授業を実施し、授業力の向上を目指す。4～6年生の算数科において、習熟別学習指導を行い、学びが継続し、中学校に繋げられるように学習指導の強化を図る。	昨年度の基礎的・基本的な内容の理解を図るために環境整備に重点をおいて研究を行った。今年度「書くこと」に重点を置いて授業の研究を行った結果、授業力の向上を図ることができた。研究の結果、「書くこと」に対する抵抗感がなくなってきた。習熟別学習指導を行い、学びが継続し、中学校に繋げられるように学習指導の強化を図る。	A
児童指導	「あくわくスタンダード」を基準に、家庭、地域、関係機関との連携をさらに深め、教職員が丸ごと一丸をモットーに、関係する職員だけでなく、学校全体が丸ごと一丸となり、子どもの課題に取り組むことができた。関係機関との連携も深まり、子ども一人ひとりに寄り添った指導を行うことができた。国際教室懇談会を年3回実施し、家庭と学校との関係を築きながら児童理解にあたることのできる、保護者との信頼関係を築き、いじめへの対応に果たした役割が大きい。	「あくわくスタンダード」が児童、保護者に浸透し、関係機関との連携をさらに深め、教職員が丸ごと一丸をモットーに、関係する職員だけでなく、学校全体が丸ごと一丸となり、子どもの課題に取り組むことができた。関係機関との連携も深まり、子ども一人ひとりに寄り添った指導を行うことができた。国際教室懇談会を年3回実施し、家庭と学校との関係を築きながら児童理解にあたることのできる、保護者との信頼関係を築き、いじめへの対応に果たした役割が大きい。	A
特別支援教育	配慮を要する児童の支援を個に応じて、教職員の専門性や長所を活かしながら、組織的に教育支援を行う。関係機関と協力し、支援の方法を工夫し、家庭と連携しながら実践していく。5・6年生の家庭科は、専科と担任のチームティーチングを行い、生活に活かせるように指導する。	配慮を要する児童の支援を個に応じて、教職員の専門性や長所を活かしながら、組織的に教育支援を行う。関係機関と協力し、支援の方法を工夫し、家庭と連携しながら実践していく。5・6年生の家庭科は、専科と担任のチームティーチングを行い、生活に活かせるように指導する。	A
教職員の研究研修	メンターチームを組織し、授業実践や実技研修等の具体的な活動を月1回程度の割合で行う。低・高学年にブロックを分け、担任以外の教職員も参加する学年ブロック研究会を行い、学級経営の充実を図る。	メンターチーム内での指導案検討や授業の見える化を行った。初任研修の割合で行う。低・高学年にブロックを分け、担任以外の教職員も参加する学年ブロック研究会を行い、学級経営の充実を図る。重点研究として「書く力」を高める授業を実施しているが、内容の広がりがあり見られなかった。担任以外の職員も主体的に関わるように時間の確保をしていく。	B
人材育成・組織運営	経験年数に関係なく、全教職員が分掌責任者に当たることで、PDCAサイクルを実践しながら人材を育成していく。専任教諭を業務分掌のリーダーとした、組織の効率的な運営を図り、教職員間の情報交換や意見交換が活発に行われるようにする。	経験年数に関係なく、全教職員が分掌責任者に当たることで、PDCAサイクルを実践しながら人材を育成していく。専任教諭を業務分掌のリーダーとした、組織の効率的な運営を図り、教職員間の情報交換や意見交換が活発に行われるようにする。	B
ブロック内相互評価後の気づき	ブロックの共通目標「基礎・基本を確実に身に付け、豊かなコミュニケーション能力を育てる子ども」に向けて、どの学校も学習のルールを定め、子どもたちが主体的に取り組むことができるように授業に工夫が見られた。本校で行われた話し合い活動は小学生であっても中学生であっても活用できるものとして有効な提案ができたと思う。さらなる基礎的・基本的な内容を定着させるために小中の単元のつながりを各小中学校で共有していきたい。	あくわく漢字検定の取り組みで学力や学習意欲の向上につながった。しかし十分な成果は見えなかった。またもう一つの共通目標である「豊かなコミュニケーション能力の育成」については、自信をもって自分を感じられる児童が増えた。これは重点研究で取り組んでいる「書く力」の育成に自信をもって表現できるの育成の成果の一つと思われる。自分・自信をもち、将来に展望をもち、自己の育成のため、さらなる小中連携強化を図りたい。	B
学校関係者評価	学校全体がともなう着実に、安心して学習に取り組んでいる。特に高学年では「書く力」を育てるだけでなく工夫した「書く力」を整える。本校の重点研究となっている「書く力」の育成の効果が目に見え、PTA活動を安心して推進することができた。本年度子どもたちの活動や学習に自分ごとで貢献した。教員をよび、やりがいを感じることができた。授業の様子を見ていて、自分の考えを表現する力や多様な考えをもつ力に優れているように思うが、学習状況調査の結果にはなかなか表れていない現状があるので、引き続き学習力に努めてほしい。地域や中学校、高校との交流事業を深めたいので、よりよい関係構築を今後も継続していきたい。	一人ひとりの児童に多くの職員が関わる姿が見られ、声厚く大切に子どもを育てていることが分かった。子どもと職員との距離の近さが印象的であり、児童数は少ないが阿久和小ならではの学校経営が感じられる。校内で阿久和のよき姿も子どもたちにも伝えていく必要がある。学習状況調査の結果を見ると、市平均には及ばない状況がある。ただし、今年度重点研究課題として進めてきた「書くこと」や、話を聞ける子どもたちの育成を経て、子どもたちが主体的に授業に参加したり、自信をもって表現する場面が増えてきた。習熟別学習など、子どもたちの実態や課題に寄り添いながらの学習支援は今後も続けてほしい。PTAはもちろん、地域との交流やよりよい関係構築の成果が見られているので、これから更に関わりたい学校であるように思う。	B
学校経営中期取組振り返り	重点研究会の充実を図り、研究や研修を教師が主体的に進め、教師力の向上と図れるように時間を確保し、内容に応じた講師を招致する。○主幹教諭のリーダーシップの発揮と副主幹のリーダーの育成を促し、小規模校として組織に活かせるように、改善していく。○各々の学びを活かした人材育成が図れるように、職員をよび、目標を明確にし、共有しながら学習に取り組んでいく必要がある。○学力の向上は急務であり、基礎的・基本的な内容の理解、定着を図るため授業の工夫、改善を行い、子どもたちに自己有用感や自己肯定感がもてるようにし、自信をもって行動できるように指導していく。	○配慮を要する児童の支援を教職員の専門性や長所を生かし、活かすことで組織的な教育支援を継続して行っていく。関係機関と協力し、よりよい支援の方法を図るために適宜ケース会議を開いたり、SSWの活用やカンパニクスを実施したり、家庭と連携しながら改善に努めていく。○6年間学びが継続し、中学校に繋げられるように「あくわく型」のスタンダードを見直し、実践していく。○習熟別学習指導をさらに充実させ、個に応じた指導を行っていく。○「書く力」を切り口とし、自信をもって表現できるように教育活動全体を通して育てていく。○主幹教諭のリーダーシップの発揮を促し、小規模校として組織に活かせるように、改善していく。	B

重点取組分野	具体的取組	自己評価結果	総括
確かな学力	「わくわくチャレンジタイム(習熟別学習)」あくわく漢字検定など個の能力に応じた学習を取り入れ、児童が見通しをもった主体的に取り組み、基礎的な学力の向上を目指す。 家庭や関係機関と連携しながら学校外学習の拡充を図る。学校司書やICTを活用し、情報活用の実践力を育てる学習を実践していく。	あくわく漢字検定では子どもたちが進んでチャレンジに取り組みの様子が見られ、わくわくチャレンジタイムでは自分のレベルに合った計算に取り組みすることができたと感じている。国際教室でも国語や算数を中心に基礎的な学力の向上を目指し、教員の指導を受けた。次年度は一人ひとりに辞書を持たせ、すぐに調べられる環境を整える。基礎的な学力向上を図る時間の確保と学習意欲の向上を図る。	B
豊かな心	学校司書やボランティアを活用し、豊かな心を育てる読書活動を推進する。道徳の時間の充実を図り、年1回以上家庭・地域に公開する。YPAアセスメントを年2回実施し、児童の実態や姿勢を把握したり、社会的スキル横浜プログラムを月1回以上行ったりして、人間関係づくりを推進する。全校で取り組む音楽活動を通して、情操を育成する。	読書活動が推進され、豊かな心を育てる読書活動を推進する。道徳の時間の充実を図り、年1回以上家庭・地域に公開する。YPAアセスメントを年2回実施し、児童の実態や姿勢を把握したり、社会的スキル横浜プログラムを月1回以上行ったりして、人間関係づくりを推進する。全校で取り組む音楽活動を通して、情操を育成する。	B
健やかな体	安心・安全でおいしい給食を提供し、食育を推進する。体育の授業の充実とともに集会活動や休み時間や放課後遊びを通して健やかな体づくりを取り組む。食育・保健教育を充実させ、委員会活動や学校保健委員会を通して健やかな身体づくりを日々意識できるように環境を整える。	安全管理を徹底し、配膳や食事のマネー、片付けの仕方を守り、食・摂食し始める自立を目指し取り組んだ。2年連続で健康優良校として表彰を受け、給食委員会の食に関する全教員を対象とした食育講座も行った。委員会活動や学校保健委員会を通して、健やかな身体づくりを日々意識できるように環境を整える。	A
教育課程学習指導	教育活動全体を通して言語活動の充実を図り、喜んで学ぶことができるように「書く力」を付けていく。教科・領域に捉われない「書く力」に焦点を当てた授業を実施し、授業力の向上を目指す。4～6年生の算数科において、習熟別学習指導を行い、学びが継続し、中学校に繋げられるように学習指導の強化を図る。	昨年度の基礎的・基本的な内容の理解を図るために環境整備に重点をおいて研究を行った。今年度「書くこと」に重点を置いて授業の研究を行った結果、授業力の向上を図ることができた。研究の結果、「書くこと」に対する抵抗感がなくなってきた。習熟別学習指導を行い、学びが継続し、中学校に繋げられるように学習指導の強化を図る。	A
児童指導	「あくわくスタンダード」を基準に、家庭、地域、関係機関との連携をさらに深め、教職員が丸ごと一丸をモットーに、関係する職員だけでなく、学校全体が丸ごと一丸となり、子どもの課題に取り組むことができた。関係機関との連携も深まり、子ども一人ひとりに寄り添った指導を行うことができた。国際教室懇談会を年3回実施し、家庭と学校との関係を築きながら児童理解にあたることのできる、保護者との信頼関係を築き、いじめへの対応に果たした役割が大きい。	「あくわくスタンダード」が児童、保護者に浸透し、関係機関との連携をさらに深め、教職員が丸ごと一丸をモットーに、関係する職員だけでなく、学校全体が丸ごと一丸となり、子どもの課題に取り組むことができた。関係機関との連携も深まり、子ども一人ひとりに寄り添った指導を行うことができた。国際教室懇談会を年3回実施し、家庭と学校との関係を築きながら児童理解にあたることのできる、保護者との信頼関係を築き、いじめへの対応に果たした役割が大きい。	A
特別支援教育	配慮を要する児童の支援を個に応じて、教職員の専門性や長所を活かしながら、組織的に教育支援を行う。関係機関と協力し、支援の方法を工夫し、家庭と連携しながら実践していく。5・6年生の家庭科は、専科と担任のチームティーチングを行い、生活に活かせるように指導する。	配慮を要する児童の支援を個に応じて、教職員の専門性や長所を活かしながら、組織的に教育支援を行う。関係機関と協力し、支援の方法を工夫し、家庭と連携しながら実践していく。5・6年生の家庭科は、専科と担任のチームティーチングを行い、生活に活かせるように指導する。	A
教職員の研究研修	メンターチームを組織し、授業実践や実技研修等の具体的な活動を月1回程度の割合で行う。低・高学年にブロックを分け、担任以外の教職員も参加する学年ブロック研究会を行い、学級経営の充実を図る。	メンターチーム内での指導案検討や授業の見える化を行った。初任研修の割合で行う。低・高学年にブロックを分け、担任以外の教職員も参加する学年ブロック研究会を行い、学級経営の充実を図る。重点研究として「書く力」を高める授業を実施しているが、内容の広がりがあり見られなかった。担任以外の職員も主体的に関わるように時間の確保をしていく。	B
人材育成・組織運営	経験年数に関係なく、全教職員が分掌責任者に当たることで、PDCAサイクルを実践しながら人材を育成していく。専任教諭を業務分掌のリーダーとした、組織の効率的な運営を図り、教職員間の情報交換や意見交換が活発に行われるようにする。	経験年数に関係なく、全教職員が分掌責任者に当たることで、PDCAサイクルを実践しながら人材を育成していく。専任教諭を業務分掌のリーダーとした、組織の効率的な運営を図り、教職員間の情報交換や意見交換が活発に行われるようにする。	B
ブロック内相互評価後の気づき	ブロックの共通目標「基礎・基本を確実に身に付け、豊かなコミュニケーション能力を育てる子ども」に向けて、どの学校も学習のルールを定め、子どもたちが主体的に取り組むことができるように授業に工夫が見られた。本校で行われた話し合い活動は小学生であっても中学生であっても活用できるものとして有効な提案ができたと思う。さらなる基礎的・基本的な内容を定着させるために小中の単元のつながりを各小中学校で共有していきたい。	あくわく漢字検定の取り組みで学力や学習意欲の向上につながった。しかし十分な成果は見えなかった。またもう一つの共通目標である「豊かなコミュニケーション能力の育成」については、自信をもって自分を感じられる児童が増えた。これは重点研究で取り組んでいる「書く力」の育成に自信をもって表現できるの育成の成果の一つと思われる。自分・自信をもち、将来に展望をもち、自己の育成のため、さらなる小中連携強化を図りたい。	B
学校関係者評価	学校全体がともなう着実に、安心して学習に取り組んでいる。特に高学年では「書く力」を育てるだけでなく工夫した「書く力」を整える。本校の重点研究となっている「書く力」の育成の効果が目に見え、PTA活動を安心して推進することができた。本年度子どもたちの活動や学習に自分ごとで貢献した。教員をよび、やりがいを感じることができた。授業の様子を見ていて、自分の考えを表現する力や多様な考えをもつ力に優れているように思うが、学習状況調査の結果にはなかなか表れていない現状があるので、引き続き学習力に努めてほしい。地域や中学校、高校との交流事業を深めたいので、よりよい関係構築を今後も継続していきたい。	一人ひとりの児童に多くの職員が関わる姿が見られ、声厚く大切に子どもを育てていることが分かった。子どもと職員との距離の近さが印象的であり、児童数は少ないが阿久和小ならではの学校経営が感じられる。校内で阿久和のよき姿も子どもたちにも伝えていく必要がある。学習状況調査の結果を見ると、市平均には及ばない状況がある。ただし、今年度重点研究課題として進めてきた「書くこと」や、話を聞ける子どもたちの育成を経て、子どもたちが主体的に授業に参加したり、自信をもって表現する場面が増えてきた。習熟別学習など、子どもたちの実態や課題に寄り添いながらの学習支援は今後も続けてほしい。PTAはもちろん、地域との交流やよりよい関係構築の成果が見られているので、これから更に関わりたい学校であるように思う。	B
学校経営中期取組振り返り	重点研究会の充実を図り、研究や研修を教師が主体的に進め、教師力の向上と図れるように時間を確保し、内容に応じた講師を招致する。○主幹教諭のリーダーシップの発揮と副主幹のリーダーの育成を促し、小規模校として組織に活かせるように、改善していく。○各々の学びを活かした人材育成が図れるように、職員をよび、目標を明確にし、共有しながら学習に取り組んでいく必要がある。○学力の向上は急務であり、基礎的・基本的な内容の理解、定着を図るため授業の工夫、改善を行い、子どもたちに自己有用感や自己肯定感がもてるようにし、自信をもって行動できるように指導していく。	○配慮を要する児童の支援を教職員の専門性や長所を生かし、活かすことで組織的な教育支援を継続して行っていく。関係機関と協力し、よりよい支援の方法を図るために適宜ケース会議を開いたり、SSWの活用やカンパニクスを実施したり、家庭と連携しながら改善に努めていく。○6年間学びが継続し、中学校に繋げられるように「あくわく型」のスタンダードを見直し、実践していく。○習熟別学習指導をさらに充実させ、個に応じた指導を行っていく。○「書く力」を切り口とし、自信をもって表現できるように教育活動全体を通して育てていく。○主幹教諭のリーダーシップの発揮を促し、小規模校として組織に活かせるように、改善していく。	B

重点取組分野	具体的取組	自己評価結果	総括
確かな学力	「わくわくチャレンジタイム(習熟別学習)」あくわく漢字検定など個の能力に応じた学習を取り入れ、児童が見通しをもった主体的に取り組み、基礎的な学力の向上を目指す。 家庭や関係機関と連携しながら学校外学習の拡充を図る。学校司書やICTを活用し、情報活用の実践力を育てる学習を実践していく。	あくわく漢字検定では子どもたちが進んでチャレンジに取り組みの様子が見られ、わくわくチャレンジタイムでは自分のレベルに合った計算に取り組みすることができたと感じている。国際教室でも国語や算数を中心に基礎的な学力の向上を目指し、教員の指導を受けた。次年度は一人ひとりに辞書を持たせ、すぐに調べられる環境を整える。基礎的な学力向上を図る時間の確保と学習意欲の向上を図る。	B
豊かな心	学校司書やボランティアを活用し、豊かな心を育てる読書活動を推進する。道徳の時間の充実を図り、年1回以上家庭・地域に公開する。YPAアセスメントを年2回実施し、児童の実態や姿勢を把握したり、社会的スキル横浜プログラムを月1回以上行ったりして、人間関係づくりを推進する。全校で取り組む音楽活動を通して、情操を育成する。	読書活動が推進され、豊かな心を育てる読書活動を推進する。道徳の時間の充実を図り、年1回以上家庭・地域に公開する。YPAアセスメントを年2回実施し、児童の実態や姿勢を把握したり、社会的スキル横浜プログラムを月1回以上行ったりして、人間関係づくりを推進する。全校で取り組む音楽活動を通して、情操を育成する。	B
健やかな体	安心・安全でおいしい給食を提供し、食育を推進する。体育の授業の充実とともに集会活動や休み時間や放課後遊びを通して健やかな体づくりを取り組む。食育・保健教育を充実させ、委員会活動や学校保健委員会を通して健やかな身体づくりを日々意識できるように環境を整える。	安全管理を徹底し、配膳や食事のマネー、片付けの仕方を守り、食・摂食し始める自立を目指し取り組んだ。2年連続で健康優良校として表彰を受け、給食委員会の食に関する全教員を対象とした食育講座も行った。委員会活動や学校保健委員会を通して、健やかな身体づくりを日々意識できるように環境を整える。	A
教育課程学習指導	教育活動全体を通して言語活動の充実を図り、喜んで学ぶことができるように「書く力」を付けていく。教科・領域に捉われない「書く力」に焦点を当てた授業を実施し、授業力の向上を目指す。4～6年生の算数科において、習熟別学習指導を行い、学びが継続し、中学校に繋げられるように学習指導の強化を図る。	昨年度の基礎的・基本的な内容の理解を図るために環境整備に重点をおいて研究を行った。今年度「書くこと」に重点を置いて授業の研究を行った結果、授業力の向上を図ることができた。研究の結果、「書くこと」に対する抵抗感がなくなってきた。習熟別学習指導を行い、学びが継続し、中学校に繋げられるように学習指導の強化を図る。	A
児童指導	「あくわくスタンダード」を基準に、家庭、地域、関係機関との連携をさらに深め、教職員が丸ごと一丸をモットーに、関係する職員だけでなく、学校全体が丸ごと一丸となり、子どもの課題に取り組むことができた。関係機関との連携も深まり、子ども一人ひとりに寄り添った指導を行うことができた。国際教室懇談会を年3回実施し、家庭と学校との関係を築きながら児童理解にあたることのできる、保護者との信頼関係を築き、いじめへの対応に果たした役割が大きい。	「あくわくスタンダード」が児童、保護者に浸透し、関係機関との連携をさらに深め、教職員が丸ごと一丸をモットーに、関係する職員だけでなく、学校全体が丸ごと一丸となり、子どもの課題に取り組むことができた。関係機関との連携も深まり、子ども一人ひとりに寄り添った指導を行うことができた。国際教室懇談会を年3回実施し、家庭と学校との関係を築きながら児童理解にあたることのできる、保護者との信頼関係を築き、いじめへの対応に果たした役割が大きい。	A
特別支援教育	配慮を要する児童の支援を個に応じて、教職員の専門性や長所を活かしながら、組織的に教育支援を行う。関係機関と協力し、支援の方法を工夫し、家庭と連携しながら実践していく。5・6年生の家庭科は、専科と担任のチームティーチングを行い、生活に活かせるように指導する。	配慮を要する児童の支援を個に応じて、教職員の専門性や長所を活かしながら、組織的に教育支援を行う。関係機関と協力し、支援の方法を工夫し、家庭と連携しながら実践していく。5・6年生の家庭科は、専科と担任のチームティーチングを行い、生活に活かせるように指導する。	A
教職員の研究研修	メンターチームを組織し、授業実践や実技研修等の具体的な活動を月1回程度の割合で行う。低・高学年にブロックを分け、担任以外の教職員も参加する学年ブロック研究会を行い、学級経営の充実を図る。	メンターチーム内での指導案検討や授業の見える化を行った。初任研修の割合で行う。低・高学年にブロックを分け、担任以外の教職員も参加する学年ブロック研究会を行い、学級経営の充実を図る。重点研究として「書く力」を高める授業を実施しているが、内容の広がりがあり見られなかった。担任以外の職員も主体的に関わるように時間の確保をしていく。	B
人材育成・組織運営	経験年数に関係なく、全教職員が分掌責任者に当たることで、PDCAサイクルを実践しながら人材を育成していく。専任教諭を業務分掌のリーダーとした、組織の効率的な運営を図り、教職員間の情報交換や意見交換が活発に行われるようにする。	経験年数に関係なく、全教職員が分掌責任者に当たることで、PDCAサイクルを実践しながら人材を育成していく。専任教諭を業務分掌のリーダーとした、組織の効率的な運営を図り、教職員間の情報交換や意見交換が活発に行われるようにする。	B
ブロック内相互評価後の気づき	ブロックの共通目標「基礎・基本を確実に身に付け、豊かなコミュニケーション能力を育てる子ども」に向けて、どの学校も学習のルールを定め、子どもたちが主体的に取り組むことができるように授業に工夫が見られた。本校で行われた話し合い活動は小学生であっても中学生であっても活用できるものとして有効な提案ができたと思う。さらなる基礎的・基本的な内容を定着させるために小中の単元のつながりを各小中学校で共有していきたい。	あくわく漢字検定の取り組みで学力や学習意欲の向上につながった。しかし十分な成果は見えなかった。またもう一つの共通目標である「豊かなコミュニケーション能力の育成」については、自信をもって自分を感じられる児童が増えた。これは重点研究で取り組んでいる「書く力」の育成に自信をもって表現できるの育成の成果の一つと思われる。自分・自信をもち、将来に展望をもち、自己の育成のため、さらなる小中連携強化を図りたい。	B
学校関係者評価	学校全体がともなう着実に、安心して学習に取り組んでいる。特に高学年では「書く力」を育てるだけでなく工夫した「書く力」を整える。本校の重点研究となっている「書く力」の育成の効果が目に見え、PTA活動を安心して推進することができた。本年度子どもたちの活動や学習に自分ごとで貢献した。教員をよび、やりがいを感じることができた。授業の様子を見ていて、自分の考えを表現する力や多様な考えをもつ力に優れているように思うが、学習状況調査の結果にはなかなか表れていない現状があるので、引き続き学習力に努めてほしい。地域や中学校、高校との交流事業を深めたいので、よりよい関係構築を今後も継続していきたい。	一人ひとりの児童に多くの職員が関わる姿が見られ、声厚く大切に子どもを育てていることが分かった。子どもと職員との距離の近さが印象的であり、児童数は少ないが阿久和小ならではの学校経営が感じられる。校内で阿久和のよき姿も子どもたちにも伝えていく必要がある。学習状況調査の結果を見ると、市平均には及ばない状況がある。ただし、今年度重点研究課題として進めてきた「書くこと」や、話を聞ける子どもたちの育成を経て、子どもたちが主体的に授業に参加したり、自信をもって表現する場面が増えてきた。習熟別学習など、子どもたちの実態や課題に寄り添いながらの学習支援は今後も続けてほしい。PTAはもちろん、地域との交流やよりよい関係構築の成果が見られているので、これから更に関わりたい学校であるように思う。	B
学校経営中期取組振り返り	重点研究会の充実を図り、研究や研修を教師が主体的に進め、教師力の向上と図れるように時間を確保し、内容に応じた講師を招致する。○主幹教諭のリーダーシップの発揮と副主幹のリーダーの育成を促し、小規模校として組織に活かせるように、改善していく。○各々の学びを活かした人材育成が図れるように、職員をよび、目標を明確にし、共有しながら学習に取り組んでいく必要がある。○学力の向上は急務であり、基礎的・基本的な内容の理解、定着を図るため授業の工夫、改善を行い、子どもたちに自己有用感や自己肯定感がもてるようにし、自信をもって行動できるように指導していく。	○配慮を要する児童の支援を教職員の専門性や長所を生かし、活かすことで組織的な教育支援を継続して行っていく。関係機関と協力し、よりよい支援の方法を図るために適宜ケース会議を開いたり、SSWの活用やカンパニクスを実施したり、家庭と連携しながら改善に努めていく。○6年間学びが継続し、中学校に繋げられるように「あくわく型」のスタンダードを見直し、実践していく。○習熟別学習指導をさらに充実させ、個に応じた指導を行っていく。○「書く力」を切り口とし、自信をもって表現できるように教育活動全体を通して育てていく。○主幹教諭のリーダーシップの発揮を促し、小規模校として組織に活かせるように、改善していく。	B